

E-8 リビングルーム形式の住宅の公的空間に関する研究

奈良女大家政 〇丸山純子 足達富士夫 扇田信

目的 第2次大戦後、リビングルーム・食堂の家族共通の公的空間と個人の私室の私的空間からなるリビングルーム形式のプランは、個人尊重思想の浸透・旧家族制度の崩壊・「たのしみ型」住居観の発展などを背景として急速に普及してきた。この形式のプランに、リビングルーム(L)、食堂(D)、台所(K)の3室の組合せによってL-D-K型(独立型)、L-DK型、LD-K型、LDK型の4種類の型があるが、その組合せの検討を中心に、公的空間についてその実際の住まい方を分析し問題点を追究した。

方法 奈良市学園前登美ヶ丘住宅地のリビングルーム形式の独立住宅40戸についてその住まい方の実態・プラン・家具配置・寸法採取・個々の問題について、主に主婦に対して聴きとり調査を行った。調査期間は、1970年8月3日～11月21日である。

結果 3室の組合せで、食堂と台所の最も密接な結びつきが要求され、食堂・台所ともにリビングルームとは分離が求められ、4種類の型のうちL-DK型への指向が強い。

また、食事場所の移動が様々の形でおこり、必ずしもプランで意図されたとおり住まわれていない。その主な理由は、①L-DK型指向 ②DKの面積的問題 ③DKの象徴的問題 ④暖冷房上の理由である。

